

自己実現 自主自立 本物の笑顔のために

東の風



平戸市立田平東小学校
学校便り

やさしく
かしこく
たくましく

No. 77

平成29年2月3日(金)

文責：園田

学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

春に備えて・・・今すべきこと、やるべきことを!

今日は節分。そして明日は立春。暦の上では「春」になります。まだまだ寒い日が一ヶ月ほどは続きます。暖かい季節と違い、野山に彩りの少ない冬。寒さ厳しいこの季節にも水仙やツバキ、サザンカ等のように寒風に負けずひたむきに花を咲かせる植物があります。



『殖ゆ(ふゆ)』

冬は「殖ゆ」からきた言葉という説もあります。「増える、増やす、たくわえる」といった意味があり新しい命が増える木の芽や花のつぼみが膨らんでいきます。その季節を「冬」と呼んだのです。

冬は凍りついた世界でなく、命の芽生える出発点だと考えてきたのですね。

やがて木の芽やつぼみはどんどん増え膨らんで張り裂けんばかりになっていきます。



中央玄関前に咲く水仙の花

『張る(はる)』

この命がみなぎり張り裂けんばかりに張った季節が「春」。「春」は「木の芽張る」の「張る」からきているとも言われています。校庭の桜も暖かい春を待ちわびるように、まだ硬い硬いつぼみを枝にたくさんつけています。



右の写真は校庭の桜です。伝統的に「さくらの学校」と呼ばれている東小学校ですが、冬である今の時期は、その美しい桜の花も、緑鮮やかな葉も落とした、一見まるで枯れたような姿です。ですが、ただ花や葉を落としたままになっているわけではありません。



桜の木は、その花が散ったときから次の新しい「つぼみ」をふくらませる準備を着々としています。地面から吸った栄養をつぼみの中に蓄えて春が来るのを待っています。数ヶ月後にまたやってくる春の準備をしっかりとしているのです。寒い寒い冬の間も、美しい花を咲かせる準備期間としているのです。未来を見据えながら、同時に今を大切に準備をします。そして春、暖かくなるとまた、その美しい花を一齐に咲かせます。

そんな春がくるまでの間、東小の桜も教室や校庭から聞こえる子ども達の元気な声を聴きながら、ひっそりと、しかし、実は力強く着実に準備をしながら、子ども達を見守っているのです。



子ども達もあと2ヶ月で、意欲満々、輝く命が大きく咲き誇るであろう春を迎えます。昨日の全校集会では、子ども達にこの校庭の桜をもとに、上記の様な「春を迎えるための今やるべき準備」について話しました。

桜と同じように、次の学年で今年以上に美しい花を咲かせることができるようこの2月、3月も「怠け鬼」を追い出し、学習や運動に、今すべきこと、やるべきことに取り組ませて準備をさせていきます。

